

事業名：命の大切さを考える防災教育公開事業（学校安全総合支援事業）

モデル地域：県立君津特別支援学校周辺地区 拠点校：千葉県立君津特別支援学校

所轄教育委員会：千葉県教育委員会 電話番号：043-223-4091

## 1 モデル地域の現状

○モデル地域名：

県立君津特別支援学校周辺地区

○学校数：小学校 1 校

中学校 1 校

特別支援学校 1 校

(2) モデル地域の安全上の課題

拠点校のある君津市北子安地区は、国道に近く住宅地として開発が進んできた地域である。拠点校の学区は、君津市・木更津市・富津市の3市で、令和元年の台風被害により、家屋の損壊や停電・断水など学校や家庭生活に影響を及ぼし、避難所生活を経験した家庭もある。その経験から、モデル地域内において、災害発生時に障害のある子どもたちが、どのように自らの命を守り、避難し避難生活を送っていくか等の課題に対して、地域と学校が連携体制を構築していくことが必要である。

## 2 モデル地域の事業目標

・モデル地域内において、災害安全に関する地域と学校の連携体制を構築し、継続的に取組が進められるようにする。障害のあるなしに関係なく、適切な避難や安全が保たれるように情報と対応の共有化を図る。

・拠点校における防災教育の充実を図る。児童生徒の障害の状態や特性及び発達段階等、さらに地域の実態に応じて、安全（防災）に関する資質・能力の育成することを目指す。

## 3 取組の概要

### (1) 実施概要

実施時期	計画事項	参加者
4月	○学校安全計画の作成と周知危機管理マニュアルの見直し	
5月	○避難訓練（地震） ○中学部単元「防災の達人になろう」～地震編～ ・起震車体験	
6月	○第1回実践委員会書面会議	地域企業協力 大学教授、君津市危機管理課、自治会 PTA、君津市教委、小中学校、病院関係、施設関係、県教委
7月	○引き渡し訓練 ○八重原中学校生徒拠点校訪問	八重原中学校生徒会
8月	○福祉避難所開設訓練	君津市危機管理課協力
9月	○防災給食の実施（非常食試食） ○避難訓練（火災）	

10月	○中学部単元 「防災の達人になろう」～火災編～ ・煙ハウス体験	
12月	・消火訓練 ○中学部：北子安小学校訪問 ○中学部単元 「防災の達人になろう」 ～風水害編～ ・公民館での避難所体験	君津消防署 協力  君津市危機管理課・公民館職員協力
	○学校公開 ・実践委員会 ・授業公開 ・講演会	大学教授、君津市、自治会PTA、君津市教委、小中学校、病院関係、県教委
	○中核教員中学校訪問授業	八重原中学校全生徒
1月	○シェイクアウト防災訓練 ○実践委員会書面会議 (事業のまとめ)	大学教授、君津市危機管理課、自治会PTA、君津市教委、小中学校、病院関係、施設関係、県教委

#### 4 具体的な取組

##### (1) 安全教育の充実に関する取り組み

##### ア 安全教育の充実に関する取組

- ① 実践委員会における情報共有  
6月、12月、1月に実践委員会を開催。6月、1月は新型コロナウイルス感染症対策のため書面会議とした。委員からは、取組の方向性や実施内容について、多くの意見や助言をいただいた。

＜実践委員＞

植草学園大学教授、君津市危機管理課、北子安自治会長、拠点校PTA会長、君津市教育委員会、北子安小学校長、八重原中学校長、君津中央病院上席看護師長、関係施設長

- ② 研修会の開催

拠点校の教職員を対象に福祉避難所開設訓練及び研修会

講師：君津市危機管理課担当職員

日時：令和3年8月6日（金）

参加者：拠点校全職員



「福祉避難所開設訓練」

- ③ 拠点校における教科横断的な防災教育の実践

拠点校においては、全校研究の中心に防災教育を据え、小学部から

高等部まで教科横断的な防災教育を実施した。中学部では、小学部の基礎知識をもとに、生活単元学習の授業で5月に地震、10月に火災、12月に風水害とテーマを設け「防災の達人になろう！」をスローガンに防災学習に取り組んだ。机上での学習と併せて体験的な学習（起震体験、煙ハウス体験、消火訓練、公民館での避難所体験、非常食体験）を取り入れることで防災への意識をさらに高めることができた。

高等部では、理科の授業で、地震のメカニズムについて学習したり、社会科の授業で、自然災害が起りやすい国土の特徴や地域で起りやすい災害に対しての自治体の対策について学んだ。



「防災ポスター作成」

④ 学校公開の開催

拠点校を会場に、公開授業と講演会を実施。

日時：令和3年12月14日（火）  
 テーマ：教科横断的な防災教育の  
 実践・普及

内容：ポスター発表、公開授業  
 講演会

講師：千葉科学大学危機管理学部  
 危機管理学科教授

「みんなで取り組む『障害者の防災』」

参加者：植草学園大学教授、君津市危機管理課、北子安自治会役員、拠点校PTA役員、君津市教育委員会、北子安小学校長、八重原中学校長、君津中央病院上席看護師長、本校職員



「起震車体験」



「公民館避難所体験」



「公開授業」

⑤ モデル地域内学校連携

7月：八重原中学校生徒会が拠点校を訪問し、特別支援学校の概要や特別な支援をする上での施設設備や教材教具の紹介を聞き、見分を広めた。訪問した中学生は、学んだ内容について、中学校の全校集会で、拠点校の児童生徒が学ぶ学習環境について説明した。

12月：拠点校中核教員が八重原中学校を訪問し、拠点校の防災の取組や障害のある人たちの避難所生活について考える学習を行った。障害のある人にとっての困難さについて相手の立場になって物事を考え、グループ協議を通して新たな見方や考え方を知る機会とした。(新型コロナウイルス感染症対策として全校生徒へのオンライン授業として実施。)



「中学校授業 グループ協議」

12月：拠点校の中学部が北子安小学校を訪問し、地域の避難所についての見聞を広げた。居住地に在籍している生徒が、実際に避難所となる体育館を見ることで、安心感を得るとともに、災害時の生活について理解を深めることができた。

**イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について**

- ① 12月14日学校公開アンケート  
「ポスター発表」「公開授業」「講演」の3項目について、参加者に評価してもらった。5段階評価の「5」の評価が80%以上を締め、本年度防災教育の取組に高い評価が得られた。この成果を今後の礎として、活かしていくようにとの意見を多くいただいた。
- ② 防災教育に関する評価の実施  
拠点校の保護者向けに、防災教育(学習)のアンケートを実施した。「防災学習は、とても勉強になったよ」と家庭で話してくれた。「今後の災害時に役立てるよう、学習した内容を、家庭で話し合いたい」と親として思った。などの意見が多く寄せられ、防災学習への意識の高まりを感じることができた。

**(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組**

コロナ禍の中、保護者、地域住民、関係機関等との連携した安全管理の取組は難しい面があったが、君津市危機管理課と連携し、避難所開設訓練や避難所体験など物品の借用も含め、運営に協力していただき実施することができた。

**(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について**

各学校において、中核となる教員を校務分掌に位置づけ、避難訓練などの学校安全を計画的に推進した。拠点校においては、先進校の学校公開への参加や君津市危機管理課と連携を図り、特に福祉避難所開設や障害のある児童生徒の避難所生活について、情報交換し、防災教育の推進に役立てた。事業実施前と比較すると、中核教員が先頭に立ち、実効性のある避難訓練や児童生徒が主体的に学ぶ防災教育を推進することができるようになった。

**5 取組の成果と課題**

**【成果】**

拠点校においては、教科横断的な防災教育の充実により、児童生徒の安全（防災）に関する資質・能力を高めることができた。

中学校では、防災授業を通じて、障害のある人の困難さを理解し、相手の立場に立って行動するなど、児童生徒が、防災に関して、新たな見方や考え方を深める機会となったことは大きな成果と言える。

この事業を通じて、拠点校を中心にモデル地域の市行政、小・中学校、自治会、病院、消防署、施設、PTA 等がそれぞれの役割を考え、連携したことは大変に意義のあるものであり、モデル地域全域で理想的な学校安全推進体制を構築するための足がかりとなった。

**【課題】**

年間を通じて、新型コロナウイルス感染症流行のため、モデル地域内で実施する合同防災訓練などの直接的な交流ができなかったことが悔やまれる。

この事業を通して、児童生徒の学びに位置づける内容、教職員が理解して行動できるようにしておく内容、保護者との情報共有と啓発活動、地域との連携など、それぞれの大切なポイントを捉えることができた。

今後は、この取組で学んだことを常にリニューアルしながら、日々の学校生活のさらなる充実を目指していく。そして、拠点校の取組がモデル地域内や他の特別支援学校でも共有され、一人一人の児童生徒の安心安全な学校生活や地域生活を支える基盤となるようにするとともに、さらに地域と学校の連携体制を強化し、継続的に防災の取組が進められるようにしていきたい。